

第 **5** 章

計画の効果的な推進に向けて

第 5 章

計画の効果的な 推進に向けて

本計画に掲げた環境保全施策の実効性を確保するため、毎年、施策の進捗状況などを点検するとともに、必要に応じ、施策の適切な見直しを行います。

また、区は計画の具体的な進捗状況の把握や計画の見直しなどを、目黒区環境審議会の意見を聴きながら推進します。

1 環境マネジメントシステムの手法による進行管理

毎年、計画に掲げた環境保全施策及び重点プロジェクトは、実施状況を調査し、進捗状況を把握します。継続的な改善を図るために、区が認証取得している ISO14001 の規格に基づく環境マネジメントシステムの手法を用い、PDCAサイクル（P l a n = 計画策定、D o = 運用、C h e c k = 点検、A c t i o n = 見直し）による進行管理を行います。

2 指標の導入

旧計画では、計画の達成状況を把握するための指標がないため、施策の実施状況を具体的に評価することができませんでした。改定後の計画では、達成状況を把握するための指標と数値目標の設定を行い、できる限り区民、事業者にわかりやすいものとししました。

3 進捗状況の公表

環境保全施策の進捗状況は、施策の実施状況とその評価を[※]環境報告書により公表してきました。今後は、環境保全施策についての区の考え方を具体的に示し、区民や事業者が自覚を持って環境問題に取り組めるよう、わかりやすく親しみの持てる環境報告書として充実させます。

環境報告書のほか、ホームページなどの様々な広報媒体を活用し、迅速な情報提供を行っていきます。

4 区民による施策の効果測定導入の検討

環境に配慮した事業への取り組みは、それら事業への参加者の日常行動との結びつきを検証し、その効果を見ていく必要があります。これまで、区民や事業者対象の環境保全施策については、参加者アンケートのみでその評価をしていましたが、効果や影響が一過性に終わってしまい、日常行動に結びつかないことも危惧されました。また、参加者自身が自らのライフスタイルの変化に気づかないこともありました。今後、それぞれの事業評価をフォローするために、区民自身が行う効果測定の導入を検討します。

5 区民・事業者の行動を促す方策の検討

環境に対する取り組みは、区民、事業者、区がそれぞれの役割を理解し、積極的に取り組んでいくことが必要です。目黒区では、区の大部分が住宅地で占められており、特に区民一人ひとりの取り組みが重要となります。

このため、本計画は、区民、事業者にわかりやすく親しみやすいものにするとともに、日常生活や事業活動における具体的な環境配慮行動の指針となるよう配慮しました。

